

大豆「里のほほえみ」の良質安定栽培の確立

要約

被覆尿素LPS60を用いることにより、培土時の追肥が可能となり追肥作業の省力化が図られ、開花期以降の安定的な肥効により安定収量が確保される。

○ 展示のねらい

大豆の収量向上には開花期追肥が効果的であるが、夏場の厳しい作業が強いられる。そこで、乗用管理機での中耕培土時に追肥を行うことにより、作業の軽労化と収量及び品質の安定化が図られる施肥法について実証する。

処理区	基肥資材	施肥量(kg/10a)	追肥資材	施肥量(kg/10a)
LPS60区	BB500	40	LPS60	15
尿素区	BB500	40	尿素	15
ひとふり区	大豆ひとふり	60	—	—

※LPS60区：培土時追肥。尿素区：開花期追肥。

○ 主な成果

- ・子実肥大初期の葉色は、いずれの処理区とも追肥の効果により開花期より濃くなった。収量（坪刈り）は、LPS60区が最も多収となり、ひとふり区、尿素区の順に高かった。
- ・被覆資材を用いることにより資材費は若干高くなるが、収量の向上により、大豆 60kg 生産に要するコスト試算ではLPS60区が最も低く抑えられる。

表1 収量・品質

	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	大粒比率 (%)	検査等級
LPS60区	42.3	46.0	98.5	1下
尿素区	32.1	47.9	99.1	2上
ひとふり区	36.3	42.6	97.8	1下



表2 コスト・時間

(10a当たり)

	基肥資材費 (円)	追肥資材費 (円)	肥料費 (円)	追肥時間 (分)	反収 (kg/10a)	生産コスト 円/60kg
LPS60区	4,780	4,050	8,830	20	423	1,252
尿素区	4,780	2,850	7,630	20	321	1,426
ひとふり区	10,260	—	10,260	—	363	1,696

今後の方向性

培土期追肥については、作業の省力化と肥料の効率的利用及び収量の向上の観点から、機械装備等に応じて導入を図る。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：日光市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315